

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
定時株主総会議決権行使株主確定日	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
基準日	3月31日

そのほか必要があるときは、
あらかじめ公告いたします。

上場証券取引所	東京・大阪・名古屋・福岡・京都・札幌
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 第一勧業富士信託銀行株式会社
同 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 第一勧業富士信託銀行株式会社 本店証券代行部
〔郵便物送付先〕 〔電話お問合せ先〕	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 第一勧業富士信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 03)3642-4004 (大代表)
同 取次所	第一勧業富士信託銀行株式会社 全国各支店 安田信託銀行株式会社 本店および全国各支店



Vol.4

第82期 事業報告書
平成11年4月1日～平成12年3月31日





21世紀へ、 くらしの笑顔を。

C O N T E N T S

ごあいさつ	2	KEY WORD	14
ニチレイグループ紹介	3	INTRODUCTION	15
財務ハイライト(単独)	5	おいしさひと工夫	16
営業の概況	6	ニチレイコラム	17
部門別概況	7	まあいテーブル	19
単独決算概要	9	株式の状況	21
連結決算概要	11	会社概要	22

中期構造改革計画(骨子)

到来しつつある大競争時代にも持続的な成長を果たせる企業体質の構築をめざし、1998年度から2000年度までの3カ年にわたる収益構造の改善計画を実施しています。

企業理念

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

基本姿勢

真に生活者の方々に望まれ、評価をいただける商品やサービスを生産性高くお届けする。

メインテーマ

- 21世紀における発展の基盤を確固たるものにする。
 - ・基幹事業のさらなる強化
 - ・財務体質の強化
- 環境変化へのすばやい対応
経営資源の重点投入
- 有利子負債の削減



代表取締役社長

手島 忠

ごあいさつ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに第82期事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当期は、消費低迷のなかで売上高は前期並みとなりましたが、資本効率を重視し、「お客さまに満足いただける価値の最大化・最良化」を目標とした事業運営の改革に努めました結果、利益面では前期を上回る成果を上げることができました。また、当社は、21世紀における発展の基盤を確固たるものにするため、「修正中期構造改革計画」の目標達成に向けて鋭意取り組んでおり、おおむね順調に推移しています。

さて、ニチレイおよびニチレイグループでは、企業価値の向上をめざし、本年度内にグループ中期経営ビジョンを策定するとともに、株主の皆さまに評価されるグループ経営の仕組みを構築いたします。また、引き続き資本効率に留意して、「選択と集中」により事業の構造改革を推進し、グループとしての競争優位を固めてまいります。

食品流通業界の再編や販売競争の激化など、食品関連業界を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続くものと予測されますが、当社は、「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」という企業理念のもと、スリムで強靱な収益体質の企業へ転換してまいり所存であります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年6月



当社及び116社

くらしの笑顔を増やし隊、ニチレイグループです。

当社グループは、当社、子会社101社および関連会社15社で構成され、低温物流、食品、不動産、その他の4部門、および全社共通（人事・総務業務代行）にわたる事業活動を展開しています。

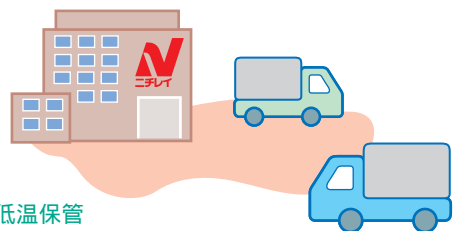
当社および子会社101社の事業概要を部門別にご紹介します。

なお、各部門に属している子会社数を国内、海外にそれぞれ区分して記載しています。



低温物流部門

全国に配置した物流センター129拠点、運行冷凍車両約2,500台により、さまざまな低温物流サービスを提供しています。また海外においても、欧州（オランダ、ドイツ）で同様の事業を行っています。



低温保管
低温輸配送
流通加工（凍結・解凍・加工など）
配送センター（TC）
角氷、包装氷の製造・販売

国内
44社

低温保管
低温輸配送
流通加工（凍結・解凍・加工など）
配送センター（TC）
統括管理（欧州）
資金調達（欧州）

海外
9社

食品部門

国内各地に配置した食品生産・加工工場、営業拠点および海外拠点を通じて、加工食品の製造・加工・販売ならびに農・水・畜産品などの素材食品の加工・販売を行っています。



加工食品
水産品
畜産品
加工食品の製造・販売
製造作業代行
水産品の加工・販売
加工作業代行
加工作業代行

食品卸・小売りなど

国内
26社

加工食品
水産品
加工食品の製造・加工・販売
アセロラの研究開発
水産品の加工・販売

食品の製造・加工・販売
統括管理（北米）
資金調達（北米）

海外
13社

不動産部門

オフィスビル・駐車場等の賃貸、宅地の分譲、不動産の管理などを行っています。



オフィスビル等の賃貸
宅地の分譲
不動産の管理など

国内
2社

その他の部門

診断薬・化粧品原料の製造・販売、蘭などの生産・販売、建築工事・設計、保険代理店などを行っています。



診断薬・化粧品原料の
製造・販売
保険代理店
建築工事・設計
その他

国内
6社

全社共通
人事・総務業務代行

国内
1社

当期の連結対象子会社は58社、持分法適用会社は10社であり、連結売上高は5,694億82百万円（前期比0.4%の減収）となりましたが、連結経常利益は117億11百万円（前期比246.2%の増益）、連結当期純利益は43億26百万円を計上することができました。

主な子会社

部門	会社名	当社の出資比率(%)
低温物流	ユーロフリゴB.V. 株式会社キョクレイ	100.0
	神奈川日冷株式会社	100.0
	株式会社日本低温流通	100.0
	株式会社ニチレイ・フーズ	100.0
食品	株式会社ユキワ	71.4
	株式会社白石ニチレイフーズ	100.0
	千葉畜産工業株式会社	91.0
	株式会社山形ニチレイフーズ	100.0
不動産	日冷商事株式会社	100.0

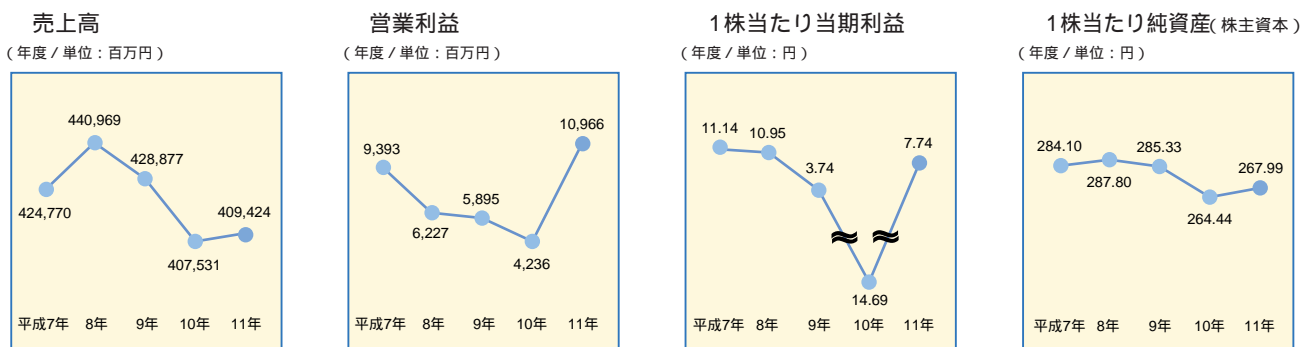
（注）印は子会社の出資であります。

経営資源の集中化の観点から、株式会社シーウォッチ・インターナショナルの株式売却や、ニチレイ・フーズ・アメリカ株式会社の資産売却など、北米における食品製造・販売事業の再編を進めております。また、株式会社ユキワは、平成11年10月に株式会社菱食ならびに三菱商事株式会社を引受先として4億円の第三者割当増資を実施するとともに、両社との業務提携によりさらなる事業強化を進めております。株式会社京都ホテルに対する再建支援の一環として、日冷商事株式会社は、「京都ホテル（御池）」（全体の3/4）の土地・建物を取得するとともに、212百万円の増資を実施しました。なお、千葉畜産工業株式会社の株式を第三者から購入したことにより、同社に対する当社の出資比率は91.0%となりました。

財務ハイライト(単独)

区 分	単位	第78期 (平成7年度)	第79期 (平成8年度)	第80期 (平成9年度)	第81期 (平成10年度)	第82期 (平成11年度)
売上高	百万円	424,770	440,969	428,877	407,531	409,424
営業利益	百万円	9,393	6,227	5,895	4,236	10,966
経常利益	百万円	7,985	4,558	4,703	2,291	7,515
当期利益	百万円	3,464	3,404	1,165	4,569	2,407
1株当たり当期利益	円	11.14	10.95	3.74	14.69	7.74
総資産	百万円	290,305	290,938	288,643	277,498	264,619
純資産(株主資本)	百万円	88,311	89,463	88,696	82,202	83,306
1株当たり純資産(株主資本)	円	284.10	287.80	285.33	264.44	267.99
設備投資額	百万円	11,569	13,729	7,688	5,301	3,482
有利子負債	百万円	130,387	130,878	134,798	126,877	107,712
従業員数	名	2,842	2,785	2,671	2,511	2,347

- (注) 1. 第82期(当期)から税効果会計を適用しております。
 2. 第78期から第80期の営業利益および経常利益は事業税額を加算して記載しております。
 3. 印は損失を示しております。
 4. 1株当たり当期利益および1株当たり純資産(株主資本)は期末発行済株式数により算出しております。



営業の概況

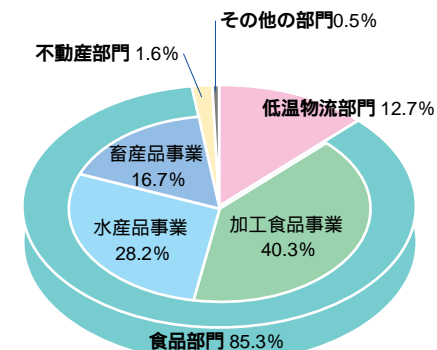
個人消費が低迷するなか、当期の売上高は4,094億24百万円(前期比0.5%の増収)にとどまりましたが、食品部門を中心に営業収益が大幅に改善したことから、経常利益は75億15百万円(前期比228.0%の増益)を計上することができました。

特別利益につきましては、株式会社京都ホテルの再建に伴う支援損失の手当てとして、千葉市花見川区(幕張)や大阪市此花区所在の土地売却益59億73百万円と有価証券売却益52億18百万円を計上し、これに賃貸用オフィスビル賃料支払請求訴訟に係る和解金受入益36億4百万円などを加えた総額は167億80百万円となりました。

一方、特別損失の合計額は197億36百万円で、その内訳は、株式会社京都ホテルの再建に伴う支援損119億16百万円、資産の健全化・流動化を目的とした固定資産売却損22億48百万円、冷蔵保管・荷役作業用パレットなどの一括償却と設備更新に伴う固定資産の除却損26億37百万円、および事業所閉鎖による損失14億56百万円などであります。

以上の結果、当期利益は24億7百万円となりました。当期末の利益配当金につきましては、1株当たり3円(年間6円)の配当とさせていただきます。

なお、コンピューター西暦2000年問題につきましては、その対応に万全を期してまいりましたので、いずれの分野でも特段の問題は発生しませんでした。



部門別売上高構成比

今後の景気動向につきましては、設備投資の回復に加え、企業の収益・業況感の改善などにより個人消費の増加が期待されるものの、自律的回復にはなお時間を要するものと予想されます。

食品関連業界におきましては、食品流通業界の再編や情報技術(IT)革命への対応、さらに高品質な商品をローコストで提供できる企業体質への転換が重要課題になるものと考えられます。

当社は、このような経営環境に対処するため、市場の変化に即応したきめ細かな事業活動を展開する一方、「修正中期構造改革計画」の最終年度として、資本効率を重視した「選択と集中」による事業の構造改革をより徹底してまいります。また、有利子負債の削減とグループ経営の基本的な仕組み作りに取り組み、持続的に成長する企業体質への転換をめざしてまいります。

低温物流部門

【保管型事業】

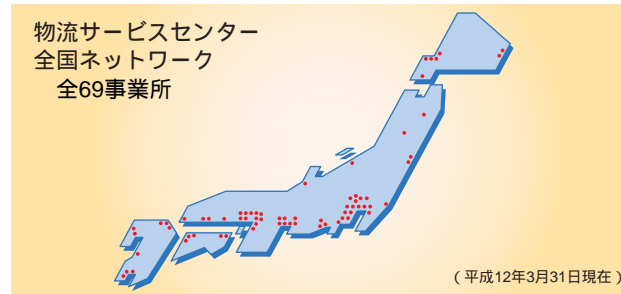
主要水産物・畜産物の輸入増などにより在庫量は前年を上回りましたが、京浜・福岡港湾地区などの庫腹増加や物流合理化の影響を受けて、当期も激しい集荷競争が繰り広げられました。

当社は、大都市を中心としたブロック別の営業体制を構築し、地域・ブロックにおいてお客さまに密着した機動的営業活動を積極的に展開する一方、荷役作業コストの低減や事務の効率化に取り組みました結果、売上高は419億9百万円（前期比1.3%の増収）となりました。

【流通型事業】

量販店・食品卸を中心に物流業務外注化の動きが旺盛となるなか、お客さまのニーズにお応えした物流システムを提案し、新たに流通型物流サービスセンターを埼玉県に2カ所開設することができました。この結果、売上高は99億26百万円（前期比17.9%の増収）となりました。

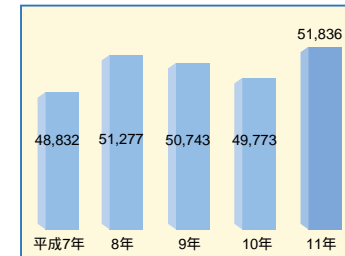
以上により、当部門の売上高は518億36百万円（前期比4.1%の増収）となりました。



低温物流部門の売上高
(年度/単位: 百万円)



船橋LSC



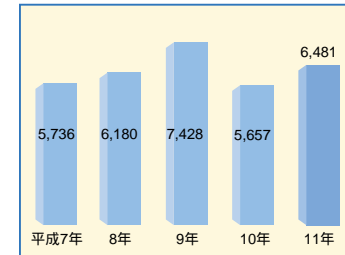
不動産部門

当期は、宅地分譲事業として、愛知県豊橋市（14区画）、愛知県岡崎市（8区画）、川崎市中原区（8区画）など、合計51区画の売上げを計上することができました。また、賃貸事業では、千葉県花見川区（幕張）などの賃貸物件を売却しましたが、オフィスビルの賃貸収入の増加により、売上げ・収益ともに前期を上回りました。この結果、売上高は64億81百万円（前期比14.6%の増収）となりました。



牛久駅西ニュータウン

不動産部門の売上高
(年度/単位: 百万円)



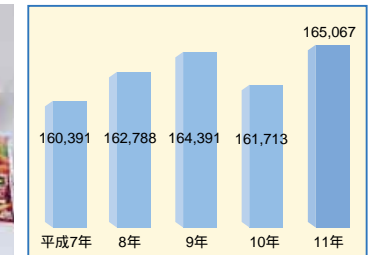
食品部門

加工食品事業

個人消費の低迷が続くなか、得意カテゴリーに特化した当社は、業務用冷凍食品が伸び悩んだものの、家庭用の「わが家のこだわり こんがり焼おにぎり」が大型のヒット商品に育つなど、順調に売上げを伸ばしました。レトルト食品・缶詰は、昨春発売した「レストランユースビーフカレー」がヒット商品となりましたが、ギフト缶詰の落ち込みなどから売上高は減少しました。健康食品としての機能を訴求したアセロラ関連商品の売上高は飛躍的な伸びとなりました。以上の結果、売上高は1,650億67百万円（前期比2.1%の増収）となりました。



加工食品事業の売上高
(年度/単位: 百万円)

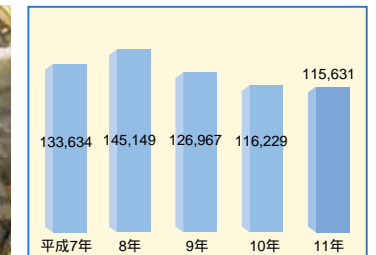


水産品事業

水産物輸入量が増加したものの、国内沿岸魚の漁獲量の減少により、需給バランスが安定した事業環境となりました。当社は、海外仕入先への技術指導を強化し品質・加工度を高めるとともに、収益性の高い商品と販売ルートへの選択と集中を進めました。この結果、取扱数量は前期を大幅に上回りましたが、販売価格が低下したため、売上高は1,156億31百万円（前期比0.5%の減収）となりました。



水産品事業の売上高
(年度/単位: 百万円)

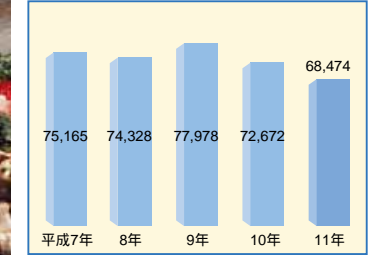


畜産品事業

畜産業界の市場規模が横這い傾向となるなか、当社は、「安心・安全・おいしさ・健康・環境にやさしい」をコンセプトとした特徴のある素材の開発・導入を積極的に進めたことから、新たな販売ルートの開拓にも繋がり、取扱数量は拡大しました。しかしながら、不採算商品の削減や畜産品全般の単価の下落により、売上高は684億74百万円（前期比5.8%の減収）となりました。



畜産品事業の売上高
(年度/単位: 百万円)



単独決算概要

単独貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第82期	第81期	科 目	第82期	第81期
	平成12年3月31日現在	平成11年3月31日現在		平成12年3月31日現在	平成11年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	119,094	117,916	流 動 負 債	89,479	100,935
現金・預金	3,908	3,093	支払手形・買掛金	28,141	25,682
受取手形・売掛金	55,480	57,722	短期借入金	21,805	26,954
有価証券	20,569	21,054	コマーシャルペーパー		15,000
棚卸資産	26,870	28,893	社債（1年以内償還）	10,000	10,000
繰延税金資産	3,173		長期借入金（1年以内返済）	4,305	25
その他	10,691	7,547	引当金	4,223	5,600
貸倒引当金	1,599	394	その他	21,003	17,672
固定資産	145,525	159,581	固定負債	91,833	94,360
有形固定資産	107,488	119,215	社債	55,000	55,000
建物	57,946	62,778	転換社債	6,307	6,307
機械装置	14,622	16,630	長期借入金	10,294	13,589
土地	28,465	31,149	繰延税金負債	1,245	
その他	6,454	8,657	引当金	549	922
無形固定資産	1,851	1,289	預り保証金	18,437	18,541
投資等	36,185	39,075	負債合計	181,313	195,296
投資その他	36,505	39,681	資本の部		
貸倒引当金	319	605	資本金	30,307	30,307
資産合計	264,619	277,498	法定準備金	29,122	28,935
			剰余金	23,876	22,959
			（うち当期利益）	（ 2,407 ）	（ 4,569 ）
			資本合計	83,306	82,202
			負債及び資本合計	264,619	277,498

（注）1. 有形固定資産の減価償却累計額 119,377百万円
2. 保証債務 44,872百万円

3. 1株当たりの当期利益 7円74銭（期末発行済株式数による）
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第82期	第81期
	平成11年4月1日から平成12年3月31日まで	平成10年4月1日から平成11年3月31日まで
売 上 高	409,424	407,531
売 上 原 価	339,224	346,249
販売費及び一般管理費	59,233	57,045
営 業 利 益	10,966	4,236
営 業 外 収 益	2,895	2,492
営 業 外 費 用	6,346	4,437
経 常 利 益	7,515	2,291
特 別 利 益	16,780	15,692
特 別 損 失	19,736	20,886
税引前当期利益	4,558	2,901
法人税、住民税及び事業税	3,517	1,667
法人税等調整額	1,366	
当 期 利 益	2,407	4,569
前 期 繰 越 利 益	2,063	2,023
過年度税効果調整額	562	
税効果会計適用に伴う準備金・積立金取崩額	3,753	
中 間 配 当 額	932	932
利 益 準 備 金 積 立 額	93	93
当 期 未 処 分 利 益	7,760	3,571

（注）1. 第82期（当期）から税効果会計を適用しております。
2. 印は損失を示しております。
3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

（注）平成11年12月2日に932,551,539円（1株につき3円）の中間配当を実施いたしました。

利益処分

（単位：円）

項 目	金 額
当 期 未 処 分 利 益	7,760,886,809
特別償却準備金取崩額	143,650,794
固定資産圧縮積立金取崩額	544,464,507
固定資産圧縮特別勘定積立金取崩額	23,028,675
合 計	8,472,030,785
これを次のとおり処分いたします。	
利 益 準 備 金	100,000,000
利益配当金（1株につき3円）	932,546,934
取締役賞与金	60,000,000
特別償却準備金	7,061,943
固定資産圧縮積立金	22,078,000
別 途 積 立 金	5,300,000,000
合 計	6,421,686,877
次 期 繰 越 利 益	2,050,343,908

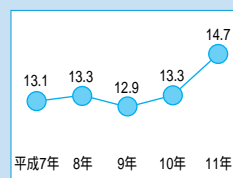
貸借対照表ポイント

営業資金（運転資金）の効率的な管理・運用により、棚卸資産回転率は前期に比べ1.4回転改善しました。

営業収益の改善や保管型事業における新規増強投資の抑制などにより、有利子負債は前期末に比べ191億64百万円減少し、1,077億12百万円となりました。なお、D/Eレシオは1.29倍となり、2001年度の達成目標である1.25倍以下をめざしてまいります。

D/Eレシオ（デット・エクイティレシオ）は、有利子負債が株主資本の何倍であるかを示し、企業の財務体質を判断するうえで重要な指標です。

棚卸資産回転率（年度/単位：回）



損益計算書ポイント

売上高は前期比微増にとどまりましたが、加工食品事業を中心とする食品部門の収益改善などにより、営業利益が前期に比べ67億30百万円増加しました。有利子負債の削減や資金調達コストの低下により支払利息が5億39百万円減少しましたが、償却率の改定に伴い適格年金過去勤務費用が12億76百万円増加したことなどから、営業外費用は前期に比べ19億9百万円増加しました。当期から税効果会計を適用しており、税効果会計を適用しない場合と比較して、当期利益は13億66百万円、当期未処分利益は56億82百万円それぞれ多く計上されています。

税効果会計とは、会計上の資産・負債と税務上の資産・負債との間に差異がある場合に、当該差異に係る法人税等の額を適切に期間配分し、税引前当期利益と法人税等の額を合理的に対応させる会計処理です。

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科 目	第82期	第81期	科 目	第82期	第81期
	平成12年3月31日現在	平成11年3月31日現在		平成12年3月31日現在	平成11年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	152,487	153,886	流 動 負 債	143,615	154,619
現金及び預金	9,130	7,969	支払手形及び買掛金	46,006	44,959
受取手形及び売掛金	74,858	77,890	短期借入金	46,572	56,938
有価証券	21,481	22,757	コマーシャルペーパー	-	15,000
たな卸資産	34,509	37,758	長期借入金(1年以内返済)	10,840	4,012
繰延税金資産	1,399	-	社債(1年以内償還)	15,191	10,000
その他の流動資産	11,812	8,201	未払法人税等	2,910	1,269
貸倒引当金	704	690	賞与引当金	-	704
固 定 資 産	216,758	210,562	その他の流動負債	22,092	21,736
有形固定資産	178,716	168,812	固 定 負 債	143,392	130,157
建物及び構築物	104,509	97,162	社 債	55,512	61,444
機械装置及び運搬具	23,341	25,391	転換社債	6,307	6,307
土地	46,201	38,831	長期借入金	60,416	42,292
建設仮勘定	2,791	3,442	繰延税金負債	757	-
その他の有形固定資産	1,873	3,984	退職給与引当金	1,159	991
無形固定資産	5,436	4,147	役員退職慰労引当金	919	1,089
投資その他の資産	32,604	37,602	連結調整勘定	-	16
投資有価証券	20,420	22,092	その他の固定負債	18,322	18,016
繰延税金資産	827	-	負 債 合 計	287,008	284,777
その他の投資その他の資産	12,482	20,837	少 数 株 主 持 分	990	494
貸倒引当金	1,126	5,327	資 本 の 部		
繰 延 資 産	-	39	資 本	30,307	30,307
為替換算調整勘定	1,378	1,349	資 本 準 備 金	23,704	23,704
資 産 合 計	370,623	365,838	連 結 剰 余 金	28,612	26,555
			自 己 株 式	0	0
			資 本 合 計	82,624	80,567
			負債、少数株主持分及び資本合計	370,623	365,838

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 162,060百万円
2. 保証債務 3,403百万円

3. 1株当たり当期純利益 13円91銭(期中平均発行済株式数による)
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結決算ト

設備投資の圧縮、北米子会社の売却ならびに固定資産の流動化を積極的に進めましたが、株式会社京都ホテルに対する再建支援の一環として、連結子会社の日冷商事株式会社が「京都ホテル(御池)」(「全体の3/4」)の土地・建物を取得したことから、固定資産は増加しました。

上記固定資産取得のため長期借入金が増加しましたが、業績の向上や有価証券の流動化などにより、有利子負債総額は前期に比べ11億54百万円減少し、当期末の有利子負債は1,948億40百万円となりました。

主として北米子会社の売却により、売上高は前期に比べ22億92百万円の減収となりましたが、収益性の高い企業体質への転換を進められた結果、営業利益は前期に比べ89億27百万円増の169億73百万円となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科 目	第82期	第81期
	平成11年4月1日から平成12年3月31日まで	平成10年4月1日から平成11年3月31日まで
売 上	569,482	571,775
売 上 原 価	465,641	477,692
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	86,866	86,036
営 業 利 益	16,973	8,046
営 業 外 収 益	3,633	3,299
営 業 外 費 用	8,895	7,962
経 常 利 益	11,711	3,383
特 別 利 益	16,554	11,343
特 別 損 失	20,286	12,320
税 等 調 整 前 当 期 純 利 益	7,979	2,406
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	4,692	2,646
法 人 税 等 調 整 額	1,158	597
少 数 株 主 利 益	118	123
当 期 純 利 益	4,326	233

科 目	第82期	第81期
	平成11年4月1日から平成12年3月31日まで	平成10年4月1日から平成11年3月31日まで
連 結 剰 余 金 期 首 残 高	25,856	32,677
連 結 剰 余 金 期 首 残 高	26,555	-
そ の 他 の 剰 余 金 期 首 残 高	-	27,640
利 益 準 備 金 期 首 残 高	-	5,037
過 年 度 税 効 果 調 整 額	698	-
連 結 剰 余 金 増 加 高	572	216
連 結 子 会 社 の 増 加 に よ る 増 加 額	536	206
持 分 法 適 用 会 社 の 増 加 に よ る 増 加 額	36	-
持 分 法 適 用 会 社 の 連 結 子 会 社 の 増 加 に よ る 増 加 額	-	9
連 結 剰 余 金 減 少 高	2,142	6,572
配 当 金	1,865	1,865
取 締 役 賞 与 金	76	120
連 結 子 会 社 の 増 加 に よ る 減 少 額	200	-
持 分 法 適 用 会 社 の 増 加 に よ る 減 少 額	-	25
持 分 法 適 用 会 社 の 減 少 に よ る 減 少 額	-	4,561
当 期 純 利 益	4,326	233
連 結 剰 余 金 期 末 残 高	28,612	26,555

(注) 1. 印は損失を示しております。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書(要旨)

(単位: 百万円)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結決算概要

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第82期		科 目	第82期	
	平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで			平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー			投資活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,979		有価証券の取得による支出	1,375	
減価償却費	16,547		有価証券の売却による収入	12,026	
貸倒引当金の増加額	26		有形固定資産の取得による支出	31,407	
退職給与引当金の増加額	112		有形固定資産の売却による収入	10,030	
持分法による投資利益	493		短期貸付金の純減少額	807	
有価証券評価損	202		長期貸付金の貸付による支出	522	
固定資産除却損	1,916		長期貸付金の回収による収入	193	
投資有価証券評価損	210		子会社株式の売却による収入	2,553	
ゴルフ会員権等評価損	556		その他	84	
受取利息及び受取配当金	805		（計）	7,778	
支払利息	5,225		財務活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産売却益	3,777		短期借入金の純減少額	13,296	
有価証券売却益	7,434		コマーシャルペーパーの純減少額	15,000	
和解金受益	3,604		長期借入れによる収入	27,794	
投資有価証券売却益	31		長期借入金の返済による支出	4,682	
関連会社支援損	11,916		社債の発行による収入	10,000	
売上債権の増加額	1,895		社債の償還による支出	10,000	
たな卸資産の減少額	2,697		配当金の支払額	1,865	
仕入債務の増加額	1,407		その他	595	
その他	1,342		（計）	6,454	
（小計）	29,412		現金及び現金同等物に係る換算差額	364	
利息及び配当金の受取額	1,079		現金及び現金同等物の減少額	410	
利息の支払額	5,345		新規連結に伴う現金及び現金同等物増加	1,582	
法人税等の支払額	3,042		現金及び現金同等物の期首残高	7,785	
和解金受入額	4,000		現金及び現金同等物の期末残高	8,957	
関連会社支援額	11,916				
（計）	14,187				

連結会計用語解説

為替換算調整勘定

在外子会社の貸借対照表を連結する場合は、現地通貨で作成された貸借対照表を邦貨に換算します。この際、資産項目および負債項目の換算は、当該在外子会社の期末日レートを用いますが、資本項目の換算は、発生時のレートによる換算額を累積していきます。この換算レートの違いにより生じる差額を調整するために「為替換算調整勘定」が用いられます。

少数株主持分・少数株主持分損益

連結子会社のなかには、当社の出資比率が100%でない会社があります。この場合、当該子会社の純資産や当期純利益には当社以外の出資者（＝少数株主）に帰属する部分が含まれています。連結貸借対照表の負債の部と資本の部の間にある「少数株主持分」は少数株主に帰属する純資産（持分）を示し、連結損益計算書の「少数株主利益」は、少数株主に帰属する当期純利益を示しています。

KEYWORD

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介いたします。

低温輸配送オペレーション

低温輸配送事業を幅広く担う株式会社日本低温流通（NTR）は、全体最適の視点から物流サービスネットワークを追求し、お客さまにベストの低温輸配送オペレーションをご提供しています。低温輸配送用トラックを“必要なときに必要なだけ”調達する - それがNTRの特長です。

自社のロジスティクス・ターミナル（低温物流施設）や営業拠点、ニチレイグループ各社の物流サービス拠点すべてと全国の有力低温輸配送会社65社が加盟するNTR協力会の機能を最適に組み合わせることにより、大量輸送から小口末端配送までのさまざまな需要にお応えしています。

NTRの運行車輛（冷凍）は約2,000台。それぞれに輸配送時の品温維持や的確な納品ルートの設定を行い、確かな輸配送品質を実現しています。



売上高：294億60百万円（平成12年3月期）

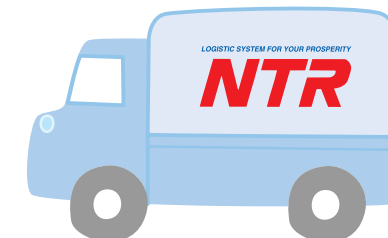
資本金：80百万円（当社100%出資）

事業内容：低温輸配送、低温保管など

従業員：205名（平成12年3月31日現在）

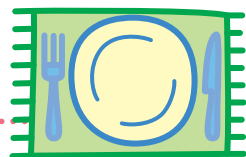
営業拠点：6支店

21営業所（内、ロジスティクス・ターミナル3カ所）



INTRODUCTION

ジャンル別にとくにご好評の商品をご紹介します。



甘えびシューマイ



グリーンランド沖で獲れた甘えびを新鮮なうちに船上でボイルし、急速凍結。旨みをギュッと封じ込めました。ジューシーなすり身と甘えびの旨み、甘み、食感がたまらないおいしさです。

お弁当にグッド 天然ぶりの照り焼き



天然のぶりを食べやすい大きさにカットし、自家製のタレに漬け込み、焼き上げました。冷めても香ばしく、おいさがそのまま。骨を取ってあるのでお子さまにも安心です。

香りほのか 梅としらすのピラフ



梅とカルシウムたっぷりのしらす、ビタミンA（カロチン）、ビタミンCを豊富に含んだ葉だいこんを混ぜ込み、かつおだしで和風のうす味に仕上げました。

アセロラCウォーター



天然ビタミンCをすっきり補給できる、カラダにやさしいナチュラルな味わいの健康志向飲料です。いつでもどこでもフルーティーな味わいが楽しめるペットボトル入りです。

ザ・シェフダイニングシリーズ（業務用）



シェフの手作りを忠実に再現し、手間と時間のかかる部分をていねいに作り上げました。ベースがしっかりしているので、お店のスタイルにあわせて自由に調理を加えることができます。

ベシャメルソース
グラス・ド・ビヤンド
チキンピジョンE X
ビーフコンソメE X
フォン・ド・ボーE X
コーンポタージュ
フュメ・ド・ポワソン
スープベース
トリッパのトマト煮込み
牛肉のバルサミコ煮
カニクリームコロッケ
皮つきトンポーロー

おいしさひと工夫

当社の商品を使った調理例をご紹介します。



カリッと揚げた鶏肉で

【カリッと唐揚げ手羽先とたけのこ】

【材料4人分】

鶏手羽先8～12本、たけのこ2本（水煮でも可）ししとう12本、日本酒大さじ2、しょうゆ少々、小麦粉大さじ3、片栗粉大さじ3、卵白1/3ケ
干し貝柱ソース2袋

【作り方】

- ① 鶏手羽先は、大きい場合タテ半分になり、ボールに入れ、塩・コショウ、しょうゆ、日本酒でもみ込み下味をつけます。さらに片栗粉、小麦粉、卵白を加え、混ぜ合わせます。
- ② 165～170度の油で、①の手羽をこんがり揚げます。たけのこ（くし型切り）とししとうは小麦粉をつけ、からっと揚げます。
- ③ 器に盛り、温めた「干し貝柱ソース」2袋をかけます。

POINT

鶏手羽先は、きつね色になるまでゆっくり揚げてください。



ブツ切り魚介で具だくさん

【ブイヤベース】

【材料4人分】

白身魚（たら、鯛、かれい、いさぎ等）1尾（切り身の場合4切れ）えび4尾、ホタテ貝柱2個、はまぐり4個（塩分の多い魚は避けてください）
サフランソース2袋

【作り方】

- ① 魚は、うろこ、内臓、背びれ、骨などを取り除き、4cm巾程度のブツ切りにします（切り身を使えば簡単です）。えびは殻をむき、背わたをとり、ホタテは2～3コに切ります。はまぐりは、口を開け、魚介に軽く塩・コショウし、15分ほどおきます。
- ② 鍋に解凍した「サフランソース」2袋をあげ、カップ2の水を加え、沸騰したら①の魚を入れ煮込みます。再び沸騰したら、えび、ホタテ、はまぐりを入れます。煮立ったら、さらに2～3分煮ながらアクを取り、味をととのえてください。
- ③ 器に盛り、パセリのみじん切りを散らし、ガーリック・クルトンを添え、お好みで「アイオリソース」をかけてでき上がりです。

POINT

大きめの、ブツ切り素材を“グラグラ”サッと煮るのがポイントです。



残ったスープに、ご飯、パスタを加えてもおいしくいただけます。



ウェルネス食品

(ウェルネス食品部を2000年4月に設置いたしました。)

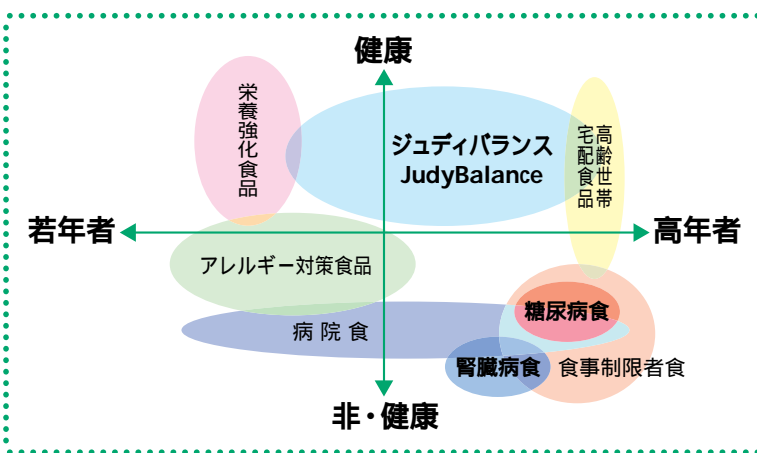
～食を通して健康と美しさをご提案～

ウェルネスとは、

健康、体調がよいこと、
生活全体を見直しながら
ゆっくりと健康な体を作っていくこと

当社のウェルネス食品のコンセプトは、

- 1 おいしく
- 2 機能性があり
- 3 安心・安全で
- 4 便利である...ことです。



特に「機能性」については、技術開発部門での研究を強化し、科学的根拠に基づく機能性を訴求していきます。また、通信販売を中心としたワン・ツー・ワンマーケティングを推進し、お客さまの真のニーズを見出し、商品開発に反映させていきます。

ウェルネス食品は、「糖尿病食」シリーズに加え、“体の中から健康に、美しく”というニーズに応えた「ジュディバランス」シリーズを発売中です。

糖尿病食シリーズ

国内の糖尿病患者数は予備軍を含めると約1,400万人、40歳以上の男性に限ってみますと、10人にひとりの割合といわれています。この傾向は食事の洋風化に伴い顕著になってきており、このまま進行すれば、10年後にはその数が3,000万人にも達するといわれています。しかも、糖尿病の進行を止めるためには食餌療法を続けなければなりません。

当社は、そうした食餌療法に少しでもお役に立つよう、栄養バランスが良く、適正なカロリーの食品を簡単にお摂りいただける組合せ食品を、当社独自の成分コントロール技術により開発いたしました。なお、安心してご賞味いただけるよう厚生省許可を取得し、より一層の品質向上に努めています。



ジュディバランスシリーズ

“医食同源”の思想に基づく薬膳をベースにジュディ・オングさんと共同で開発いたしました。

そのコンセプトは「素材本来の持ち味をきちんとした調理法で、しかも何よりおいしく」で、健康な人がさらに健康であるための、また、さらに若々しく美しくあるための、新しいバランス食です。

安心素材で安全調理を基本に、おいしさと高い品質を追求した「おいしく食べる健康」をお届けいたします。



ジュディ・オングさん



ウェルネス商品に関するお問合せは、
ニチレイウェルネスお客様センター

フリーダイヤル

0120-86-2101

(受付時間：平日 午前9：00～午後6：00)

ホームページ：<http://wellness.nichirei.co.jp/>



アンケートでは毎回たくさんのご意見や激励のお言葉をいただき、誠にありがとうございます。

株主の皆さまのお声はニチレイの大切な財産であり、発展の源です。このコーナーを株主の皆さまとの貴重なコミュニケーションの場として、活用させていただきます。

今後とも、ニチレイへの一層のご支援とともに、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

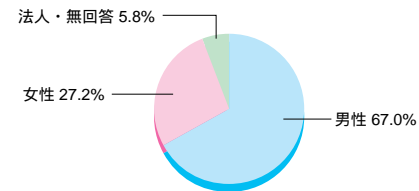
お知らせ

当社では、環境保全への取組みについてまとめた「環境報告書」を作成中です。7月中旬に発刊を予定していますので、ご希望の方は、電話、FAX、または電子メールで下記の宛先までご請求ください。

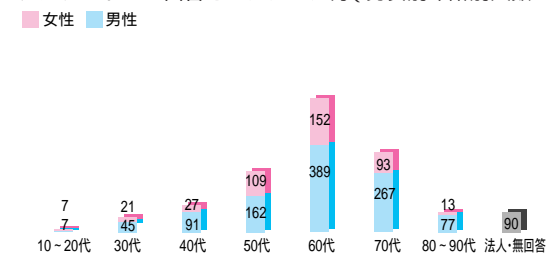
ご請求先：株式会社ニチレイ・技術部
 担当：石川・豊永
 TEL：(03)3248-2102
 FAX：(03)3248-2129
 E-mail：ishikawac@nichirei.co.jp

Q & A

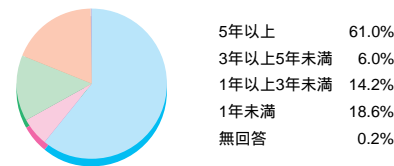
アンケートのご回答をいただいた方（男女構成比）



アンケートのご回答をいただいた方（男女別年齢別人数・名）



当社の株式をご所有されて、どのくらいになりますか？



（第82期中間事業報告書にて実施した集計によるものです。）



Q 経営戦略や目標についておしえてください。

A 当社は、21世紀における発展の基盤を確固たるものにするため、1998年度から3か年にわたる中期構造改革計画を策定し、その達成に向けて取り組んでまいりました。昨年には、さらに徹底した構造改革を推進するため「修正中期構造改革計画」を策定し、1999年度から2000年度に取り組むべき課題を設定するとともに、21世紀のスタートにあたる2001年度の経営達成目標*を掲げました。

この計画では、資本効率の重視や「お客さまに満足いただける価値の最大化・最良化」を目的とした事業運営の構造改革を推進し、スリムで収益力の高い企業体質への転換をめざしています。また、社会や時代の変化に機敏に対応するとともに、当社グループの将来を見据えた経営システムの再構築に取り組んでいます。

* 当社2001年度（2002年3月期）目標

売上高	4,500億円
経常利益	95億円以上
株主資本利益率（ROE）	6%以上
D/Eレシオ	1.25倍以下
従業員数	2,500名



Q 低温物流部門で取り組んでいる構造改革の内容をおしえてください。

A 当社は、低温物流事業を当社グループの中核事業と位置付けており、適正な収益を継続的に確保できる基盤を確立するために、修正中期構造改革計画において設定された課題解決に向けて鋭意取り組んでいます。

保管型物流事業では、庫腹過剰や物流合理化の進展などから厳しい事業環境にあるものの、新規増強投資を抑制し、不採算拠点の廃止・集約、荷役作業コストの低減および情報化・設備自動化等の推進によりローコスト運営を進めるとともに、お客さまに密着した機動的な営業体制に組織を再編し、収益力の回復を図っています。

また、量販店などの物流センター運営受託をはじめとする流通型物流事業や物流フローの改善提案事業（3PL事業*）を積極的に展開しています。

* 3PL事業（サードパーティロジスティクス事業）
 お客さまの立場で現状の物流を抜本的に見直し、全体最適の視点でトータル物流コストを削減する仕組みを構築し、その成果をお客さまと共有する、新しい物流改善提案事業です。

株式の状況 (平成12年3月31日現在)

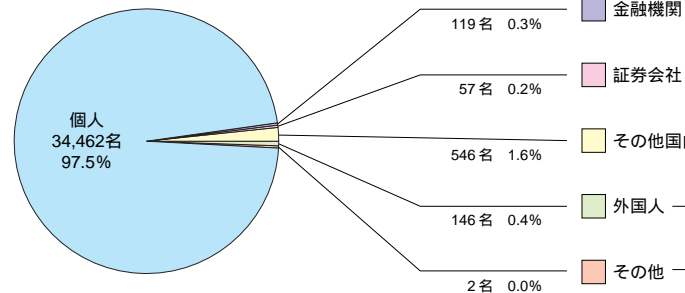
会社が発行する株式の総数	720,000,000株
発行済株式の総数	310,851,065株
1単位の株式数	1,000株
株主数	35,332名

大株主

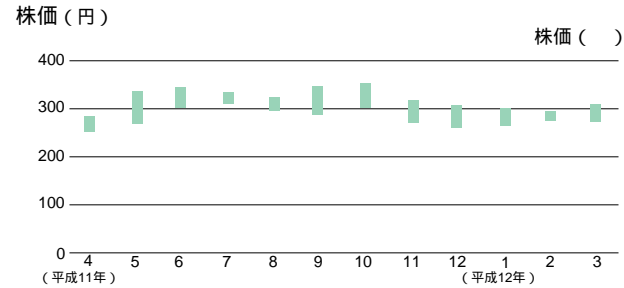
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
住友信託銀行株式会社(信託口)	23,324	7.5
日本生命保険相互会社	18,539	6.0
株式会社富士銀行	13,655	4.4
日産火災海上保険株式会社	9,968	3.2
三菱信託銀行株式会社(信託口)	6,746	2.2
株式会社日本興業銀行	5,514	1.8
株式会社第一勧業銀行	5,403	1.7
第一生命保険相互会社	5,351	1.7
農林中央金庫	5,350	1.7
富国生命保険相互会社	5,303	1.7

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

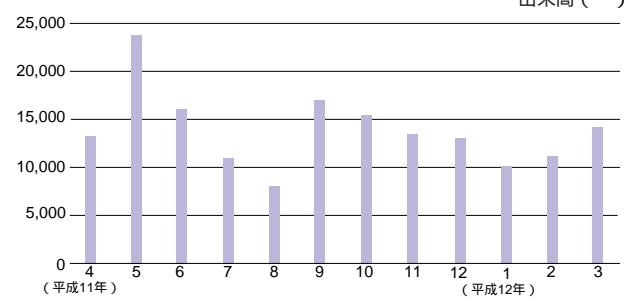
所有者別株主数分布状況



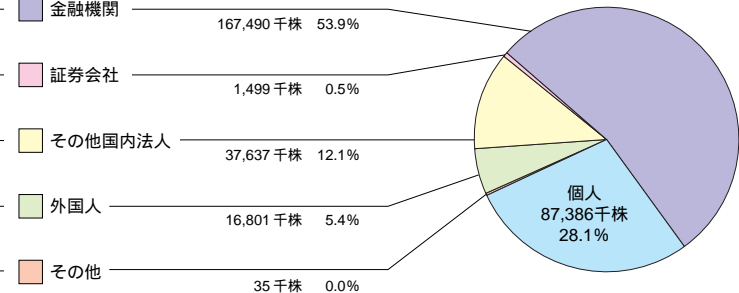
株価チャート



出来高(千株・月間合計)



所有者別株式数分布状況



会社概要 (平成12年6月29日現在)

社名 株式会社ニチレイ
所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号
 ニチレイ東銀座ビル

設立 昭和17年12月

役員

代表取締役社長	手島 忠治
専務取締役	中野 勲
専務取締役	吉川 好三
専務取締役	山口 修司
常務取締役	福田 厚司
常務取締役	原村 上英
取締役	横田 浩二
取締役	後藤 津一
取締役	大島 武元
取締役	大前 敏一
取締役	千嶋 充幸
取締役	浦野 光利
取締役	遠山 昌男
取締役	椎橋 治男
取締役	笠井 剛裕
取締役	荒井 昌修
取締役	秋山 義比古
取締役	相馬 文男
常任監査役(常勤)	北田 鴻之介
監査役(常勤)	河上 和雄
監査役	内野 治泰

従業員数 2,347名 (平成12年3月31日現在)

会計監査人 監査法人 太田昭和センチュリー

当社の会計監査人太田昭和監査法人は、平成12年4月1日をもってセンチュリー監査法人と合併し、「監査法人 太田昭和センチュリー」となりました。合併後は「監査法人 太田昭和センチュリー」が引き続き当社の会計監査人となりました。

主たる事務所
 東京都港区芝大門一丁目1番3号
 日本赤十字社ビル

関与社員が執務する事務所
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
 日比谷国際ビル



本社

ホームページアドレス <http://www.nichirei.co.jp/>

支社

- 北海道支社** 〒060-0010 札幌市中央区北10条西20-2-20
☎(011)631-0178
- 東北低温物流支社** 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
☎(022)711-2101
- 東北営業支社** 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
☎(022)711-2101
- 関東低温物流支社** 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
☎(03)3297-4501
- 関東営業支社** 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
☎(03)3297-4501
- 中部低温物流支社** 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
☎(052)683-2551
- 中部営業支社** 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
☎(052)683-2551
- 関西低温物流支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8
☎(06)6263-2555
- 関西営業支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8
☎(06)6263-2555
- 九州低温物流支社** 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
☎(092)841-6700
- 九州営業支社** 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
☎(092)841-6700